

<相田証言 1.>

この部分の記述の文意は明らかに、登攀技術に問題があった、ということを示唆していると受けとれる。であるならば、従来の麻ザイル以上の数倍の強度を有するというメーカーの標榜、運動具店の勧めで購入した保証付き新品ナイロンザイルが、厳冬期、無雪期を問わず岩壁登攀中、穂高の山域に常在する鋭角な岩角で簡単に切断したことを湯浅は如何に考えるのか。登山者が使用した新品ナイロンザイルが、従来の麻ザイルでは考えられないもろさで切断した重大さは岩壁登攀経験者でない相田も理解出来る。登山者の生命を万一の滑落から守るためのザイルの機能、役割りを湯浅はどう考えるのか。

ナイロンザイルがメーカーの標榜したように麻ザイルの数倍の強度が確実なものであったならば、切断は起こらず若山は滑落だけで岩壁に留まることができた。それが従来の麻ザイルでは考えられないもろさで切断した。この「もろさ=欠陥」がなければ、若山氏は転落死亡していない事は確実である。